

## 滋賀県文化審議会第9回会議 議事概要

- 1 日 時 平成24年10月18日(木) 15:00～16:30
- 2 場 所 滋賀県立近代美術館 会議室
- 3 出席者 委員：青木会長、北島委員、巽委員、辻委員、殿村委員、中川委員  
中島委員、東川委員、福山委員、松崎委員、宮本委員  
(11名出席)  
事務局：多胡次長、宮川管理監、西川課長、片山参事、竹内主幹
- 4 議事概要 以下のとおり

## (1) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標について

## ○委員

- ・登録文化財の件数について、発信した時の方が大事ということはどういうことか。

## ○委員

- ・登録文化財の点数が滋賀県は圧倒的に多いが、文化財そのものが県外にどれだけ発信されているかということが知りたいということ。奈良と京都は元から文化財が多いイメージがあるが、滋賀は意外と奈良や京都に匹敵する文化財の宝庫であるというイメージがない。もっと関東などに広げて、積極的なアクションをしようではないかということ。

## ○事務局

- ・琵琶湖文化館の所蔵品が現在、東京の三井記念博物館で展覧会を開催しており、その次は静岡市美術館で行うことになっている。今は県外の方に鑑賞の場を設けているという形になっている。

## ○委員

- ・それらをデータ化するべきだ。去年は韓国で展示している。

(2) 滋賀県文化審議会評価部会における審議内容について

## ○委員

- ・事業評価を行った「音楽会へ出かけよう！ホールの子」事業の印象だが、対象は小学生中低学年で、事前に先生がいろいろと子供達に理解を深めるためにティーチングをしておられたのか、とても行儀が良く驚いた。公演後の子供達の顔つきが来た時とかなり変わっていた。生のクラシック体験を体で感じてくれたのではないか。効果の高い事業である。多くの児童が体験できるようにするために公演数を確保することが課題である。また、対象となる学年に応じて公演の内容を変えるべきではないか。

## ○委員

- ・この事業は、びわ湖ホールに来るということも一つの目的か。
- ・学校に対する支援はどのようなものを実施したのか。

○事務局

- ・びわ湖ホールに来ることも目的の一つだ。
- ・交通費の助成制度を設け、学校からびわ湖ホールまでの間の交通費の1/2を補助していることもあり木之本、あるいは高島の方からも参加してもらっている。

○委員

- ・この事業は何年生が対象か。
- ・一番効果的な学年は。県内の小学生は必ず来られるようにすべき。

○事務局

- ・対象は3年生、4年生を目指しているが、小規模校は、1年から6年までの全員で来る場合もある。
- ・学校へは「音楽会へ出かけよう」のプログラムを事前に配布し、事前ぶ勉強してもらっている。

○委員

- ・卒業するまでに全児童が行けるようにしてほしい。ある時期に観たものはすぐ影響が出なくても、後になって甦ってくる。いい事業なのでずっとやっていただきたいと考える。

(3) 滋賀県文化審議会次世代育成部会における審議内容について

○委員

- ・本当に若手をどう育てていくかがこれからの課題だ。体験の場を増やしていくということは出来るが、そこから結果を生み出していく、具体的には、次世代ということでの成果を見せていくということは、なかなか難しいと考えている。
- ・次世代よりもむしろ現役を終えた人が一生懸命学びたいということで、アートや文化環境に積極的に出てこられているので、次世代と繋げることができれば面白い。

○委員

- ・今の20代の平均所得が160万円、生活に一生懸命の人たちというのは、文化になかなか振り向けない。文化に振り向こうと思うためには少し余裕がないといけない。今の若い人たちの子供を文化に触れさせること自体、時代的に難しいのではないか。むしろ祖父母が子供を様々な文化体験に連れて行くことで文化を伝えられる。

○委員

- ・働く世代の人たちは文化に行かないのも事実で、もしくは行く時間がない。月曜日から金曜日まで帰るのが遅く、8時・9時まで仕事をしている。コンサートを7時から、なんて行けるわけがない。土曜が出勤の人もある。就業形態も影響しているのではないか。
- ・小さい時から美術館とかコンサートに行く習慣をつけておくと、仕事が忙しい時も、時間があれば美術館に行く。アメリカやヨーロッパでは比較的習慣があるが、日本の社会人にはほとんどない。そのような習慣を社会的につけていくことを率先してやっていくべき。

#### (4) その他について

##### 新生美術館基本計画について

○委員

- ・増築場所はこの近くを考えているのか。

○委員

- ・スケジュールはどうなっているのか。

○事務局

- ・場所は現在の企画展示室の西側の方を張り出す形を考えている。北側にもエントランスを作ることを考えている。
- ・県民の皆さんから意見を聞きつつ、外部の委員の方を含めた検討委員会を4回開催した。これから議会とも十分相談していく。来年度から予算をつけて実施設計を行いその後工事となるので全体で4、5年、平成の29年か30年くらいのオープンになると考えている。

○委員

- ・アール・ブリュットの展示が常設になることは大変喜ばしいことだ。
- ・レストラン・カフェ、ショップなど無料エリアの魅力を向上するとあるが、私は海外では必ずしも入り口が美術館ではなく、カフェのような場所の入り口で、家族みんなで見に来て、お茶をしながら部屋に入ってみたら面白い作品があったという光景を見た。現実的な感覚として無料の場で長く滞在できる場所を探している。
- ・ショッピングモールの展示会もあるが、滋賀県の魅力としてその場に遊び場として行ってみよう、という文化芸術などに対する出会い方があり、豊かな出会いの場所になるのではないかと大変期待している。

○委員

- ・学芸員なりコーディネーターなり、人の補充を考えるべき。博物館・資料館は人で成り立っているといっても過言ではないので心配するところだ。
- ・近代美術館の小中学生の利用者が増えているがサポーターの数は変わらない。対応するためには学芸員以外の人も必要である。

○委員

- ・世界的にみて、美術館は建物が一番大事だ。まず建物そのものが美術で、それを人が見に来て、その後、中へ入って美術品を見るという構造になっている。どのような美術館になるか期待している。

##### しが県民芸術創造館について

○委員

- ・栗東芸術文化会館さきらではびわ湖ホールで出来ない事をやっていく、小さくてもインパクトのあるものをしていきたいという思いがあった。県立ホールとは少しランクが小さくても気の利いたモノをやっていきたいと考えていた。

- ・創造館の方向性についてはありうる話だ。ただ、大きく湖北と湖南と、文化産業交流会館とびわ湖ホール、2つの拠点というよりは南北に二極化したようなイメージを持ってしまう。

○委員

- ・びわ湖ホールは世界のアーティストとか東京のアーティストの公演が多いが創造館では、地域の音楽家や地域に根ざした企画をしていた。そういった場所がなくなってしまうと、若手の育成事業等が偏ってきてしまうのでは、地域の若手の活躍の場がなくなっていくのではないかなという心配がある。

(以上)